

## 第16期 第5回小平市緑化推進委員会 会議要旨

- 開催日時 令和元年5月23日（木）午後6時30分～午後8時30分
- 開催場所 小平市役所 5階 502会議室
- 出席者 椎名委員長、山田副委員長、水野委員、市川委員、田中委員、白井委員  
八田委員、千葉委員、菊地委員、和田委員、加藤委員、大久保委員、  
栗原委員（順不同）
- 傍聴人 1名
- 議題 (1) 第16期小平市緑化推進委員会の検討課題について  
(2) その他
- 配付資料 (1) 第16期第5回小平市緑化推進委員会次第  
(2) フラワーストリートの推進  
(3) 緑化推進に向けた個別プロジェクトの提案  
(4) 小平市緑化推進計画における協議テーマの選定について  
(5) 過去4回の緑化推進委員会で提案された項目のカテゴリー別、  
実現具体化状況  
(6) 小平市における緑化推進について

### 会議の要旨

まず、委員から配付資料（2）フラワーストリートの推進、（3）緑化推進に向けた個別プロジェクトの提案、（4）小平市緑化推進計画における協議テーマの選定について、（5）過去4回の緑化推進委員会で提案された項目のカテゴリー別、実現具体化状況（6）小平市における緑化推進についての説明があった。

説明後、次のとおり質疑があった。

### 委員

元々ハンギングバスケットを使ってどのような緑化をしていくかを考える必要があると思う。まず根本的な小平のみどりの理念があって、それを実現するための方針があり、最後にハンギングバスケットをやるという考え方が必要。

## 委員長

方針として市内全体のハンギングバスケットのネットワークをつくり、最終的には「花いっぱい全国大会のまち小平」につなげていくのがよいと思う。今回提案があったのは、あかしあ通りや一橋学園商店街であったが、他の駅前なども含めてネットワークづくりをしていければよい。訪れる人が小平はハンギングバスケットのまちだとイメージできるようにすること。

## 委員

市民の力がまちづくりの力になる。地域の住民が自分たちの力で道をきれいにし、まちの魅力が高まれば、人も増えてくる。まずは小さなところから始めていくことが大事だと思う。

## 委員

地方のまちでは、地元の住民たちが個々で活動していたものが広がりを見せてまちづくりにつながることもある。モデルをつくって徐々に広げていくことが手法の一つになると思う。

## 委員

手法の一つとしては広報ができる資料を作成するのがよいと思う。もし小平駅南口花壇の花植えのような規模のボランティアを集めるとなるとそれだけ情報発信していくことが重要になる。

## 委員

そもそもなぜ小平がハンギングバスケットをやるのか。その動機づけが必要ではないか。

## 委員長

7年前に小平で花いっぱい全国大会を開催したことが一番の理由になると思う。7年経過しても小平駅南口ロータリーの花壇をはじめ、市内には多くの花壇がありよく継続できている。今後さらに発展させていくということで先陣を切ってハンギングバスケットやっていくというのはおもしろいのではないか。

## 委員

もしハンギングバスケットをやるとなったら、小平市緑と花いっぱい運動の会では何か協力できることはないか。

## 委員

過去に会員向けにハンギングバスケットの講習会を開催したことがあり、今でも家でやっている方もいる。講習会は会員に向けたものになるがそういう形での協力はできると思う。

## 委員長

講習会をやった後でどのくらいの方が継続しているかわかればよいが。

## 委員

小平駅南口花壇の花植えは最初やったときどのくらいの人数が参加していたかわかるか。

## 事務局

一番最初は花いっぱい全国大会のときだったので相当数の方に参加していただいた。現在でもほぼ同じ規模で西武鉄道や小平緑と花いっぱい運動の会などの協力により毎回150人くらいは集まっていた。

## 委員

その規模の人数が集まるのであれば企業や市民と組んでできると思う。花壇に会社のネームをつけるなど。

## 事務局

ハンギングバスケットの課題は給水面である。現在ハンギングバスケットをやっている場所があるが枯れてしまっているものもある。

## 委員長

自動給水装置をクラウドファンディングにより設置し、企業名を載せるなどできればよいと思うが。

## 委員

設置した企業名だけでなく、実際に手入れしている方々の名前も載せるべきだと思う。

## 委員長

ふるさと村を農業公園にするという提案があったが、ふるさと村周辺の農地を保全することで小平の原風景を残していくということが重要であると思う。

ふるさと村は都市計画では何の分類に該当するか。

## 事務局

ふるさと村の北側に付属しているかきの木公園は都市公園であるが、ふるさと村自体は施設である。

## 委員長

ふるさと村を農業公園にするのであれば、周辺一体を含めて都市計画決定する必要がある。ただ、運営については指定管理者に任せることもできるのではないか。

## 委員

小平は2018年における調査で転入の多いまちで16位になっている。新しく住む人に小平のふるさとの風景を残してあげたいと思う。

## 委員長

人口が増えるということはそれだけ宅地化が進むということで、農地の減少につながる。都市間競争に生き残るためのみどりのあり方を考える必要がある。初めて小平に来た人がこの街に住みたいと思わせることが重要。

## 委員

今あるみどりの一つとしてオープンガーデンが挙げられると思う。そこまで数は多くないと思うので、増やすためにもオープンガーデンの補助制度をつくる必要があると思う。

## 委員長

ハンギングバスケットは道路や商店街でやれば線になる。一方でオープンガーデンは個々の庭でやるものなので点になる。理想としてはハンギングバスケット通りがあって、その周辺にオープンガーデンが広がっていくようなまちづくりができればよいと思う。

## 委員

小平の緑化は、玉川上水やの野火止用水など水と緑のネットワークから緑化提言するべきだと思う。

仮にハンギングバスケットや都市農業公園をやるとしたとき、すぐに観光と結びつけて集客を増やそうとするのはよくないと思う。そうではなく、小平に住む人が自分の住む地域のみどりを楽しめるような緑化が小平には必要なのではないか。

## 委員長

観光だけを目的にするのではなく、最終的には小平に住んでもらうことが都市間競

争に勝つために必要なことである。小平に住む理由にみどりを挙げてもらえるようにすること。その前提があった上で、小平を知らない人が来るきっかけに観光を取り入れられればよいと思う。

#### **委員**

小平に住む人が歩いて楽しむことができるみどりが必要であると思う。そうなりとやはりグリーンロードが小平の緑化のポイントになると思う。

#### **委員長**

狭山・境緑道の沿道の畑の一部で花植えなどできるようになればおもしろいと思う。

#### **委員**

畑の周辺で花植えをすると作物への影響が出ることもある。

#### **委員長**

場所ごとによって緑化を考える必要があると思う。例えばあかしあ通りなどの道路にはハンギングバスケットで路地裏にはオープンガーデン、一方で雑木林には雑木林にあるべき花や樹木を残すなど、場所ごとに適した緑化をすべきだと思う。

以上